

Title	PAM50 for prediction of response to neoadjuvant chemotherapy for ER-positive breast cancer
Author(s)	大原, 亜子
Citation	大阪大学, 2019, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/72539
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 大原 亜子	
論文審査担当者	(職) 氏 名
	主 査 大阪大学教授 野口 眞三郎
	副 査 大阪大学教授 土岐 祐一郎
	副 査 大阪大学教授 古井 栄一
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>発表者は、ER陽性乳癌に対する化学療法の適正な実施に当たって、PAM50によるsubtype分類(Luminal A(LA), Luminal B(LB), HER2-enriched(HER2), Basal-like(BL))が化学療法感受性の予測に有用であるかを検討した。</p> <p>術前化学療法(paclitaxel q1w for 12 cycles → FEC q3w for 4 cycles)を施行したER陽性乳癌124例を対象とし、NAC施行前に採取したVAB生検検体よりRNAを抽出し、マイクロアレイを用いてPAM50によるsubtypingを実施した。PAM50分類の結果、LAのpCR率は1.92% (1/52)で、その他のsubtype(LB+HER2+BL, 15.3% (11/72))に比して有意に低率であった($p=0.014$)。一方、従来の病理学的因子を用いた分類(St.Gallen 2013)の結果は、LAのpCR率は5.4% (2/37)で、その他のsubtype(LB+L+HER2, 10.3% (10/87))と有意差を認めなかった($P=0.297$)。また、多変量解析の結果、PAM50分類は、既存の臨床病理学的因子(T, N, HG, PR, Ki67, TIL)とは独立した化学療法の効果予測因子であった($P=0.031$)。</p> <p>ER陽性乳癌において、PAM50分類は、病理学的因子による分類よりも化学療法感受性の予測により有用であることを示した本論文は博士課程学位の授与に値すると思われる。</p>	

論文内容の要旨

Synopsis of Thesis

氏名 Name	大原 亜子
論文題名 Title	PAM50 for prediction of response to neoadjuvant chemotherapy for ER-positive breast cancer (ER陽性乳癌を対象としたPAM50分類による化学療法感受性の予測)
論文内容の要旨	
〔目的(Purpose)〕 ER陽性乳癌は、ER陰性乳癌に比して化学療法感受性が低く、化学療法によりベネフィットを得る患者の割合は少ない。従って、ER陽性乳癌に対する化学療法の適正な実施に当たっては、精度の高い化学療法感受性予測法の開発が不可欠である。本研究では、PAM50によるsubtype分類 (Luminal A (LA), Luminal B (LB), HER2-enriched (HER2), Basal-like (BL)) が化学療法感受性の予測に有用であるかを検討した。	
〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕 術前化学療法 (paclitaxel q1w for 12 cycles → FEC q3w for 4 cycles) を施行したER陽性乳癌124例を対象とし、NAC施行前に採取したVAB生検検体よりRNAを抽出し、マイクロアレイを用いてPAM50によるsubtypingを実施した。PAM50分類の結果、LAのpCR率は1.92% (1/52) で、その他のsubtype (LB+HER2+BL, 15.3% (11/72)) に比して有意に低率であった ($p=0.014$)。一方、従来の病理学的因子を用いた分類 (St. Gallen 2013) の結果は、LAのpCR率は5.4% (2/37) で、その他のsubtype (LB+L-HER2, 10.3% (10/87)) と有意差を認めなかった ($P=0.297$)。また、多変量解析の結果、PAM50分類は、既存の臨床病理学的因子 (T, N, HG, PR, Ki67, TIL) とは独立した化学療法の効果予測因子であった ($P=0.031$)。	
〔総括(Conclusion)〕 ER陽性乳癌において、PAM50分類は、病理学的因子による分類よりも化学療法感受性の予測により有用であった。	